

# 潮騒

## 遊び・遊び場

一昔前の遊びや遊び場は、身近な自然から学び自然から教わっていた気がします。「子どもに限らず誰も自然の中で遊びたがらない」という意見もあるかもしれませんが、現代のライフスタイルの変化に私達が敏感に適應し、それに伴い自然を親しむ心が遠くなりつつあるのも事実ではないでしょうか。

遊びやすい環境、誰からも親しまれ、そして心安らぐ住みよい安全な地域の創造は、21世紀に生きる私たちの「責務」と考えます。



## CONTENTS

### 目次

- 特集:「遊び・遊び場」..... P.1~4
- 表浜むかし話「潮の流れ」.....P.5
- 協議会の活動報告.....P.6
- 〔国土交通省事業〕地域振興アドバイザー派遣受入れの紹介など.....P.7
- 平成16年度事業計画.....P.7

# 遊び・遊び場

私たちの思い出として残っている遊び、思い出の場所として存在していた遊び場は、今現在、少しずつ変化しています。一昔前、表浜地域の子供たちは近所のあちこちで走り回り、そして自然( ほうべ・表浜海岸など)を舞台にして遊んでいました。

海沿いの崖

今は、人工的に造られた遊び場が増え、その区域の中で限られた遊び方しかできない時代であるとも言えます。

## 遊び・遊び場を思い起こす写真

表浜の流木を遊び道具にする子ども達  
(昭和20年代 大草海岸)



地引網が揚がる横で波と戯れて遊ぶ子ども達  
(昭和20年代 大草海岸)



汐川上流でウナギ釣りをして遊ぶ子ども達  
(昭和30年代 大草校区弥田地内)



## 私たちの遊び場



山学校

富田 寿さん

(大草校区・農業)  
昭和11年4月10日

私が小学生の頃の話です。私と数名の仲間は、小学校へ行く通

学路を度々変更し、ほうべに向いました。ほうべは私たち子どもにとって天然の遊び場で、上級生に木登りを教えてもらいながら木の上に基地を作ったり、四季折々に実るウベやグミを食べて終日を楽しく過ごしました。私たちにとってはこれが学校で、みんなは山学校と呼んでいました。

山学校の運動場は広く、東は本前・水川(現在の南町地区)の境、西は宝幢寺川、南は大草海岸で北は西野橋(汐川上流辺り)という区域が私たちの活動範囲だったような気がします。

大草海岸では貝拾いや渡りガニを捕りに行きましたが、ほうべから波打ち際に行くまでには少なくとも2回は立ち止まり、砂浜に穴を掘って足の裏を冷やさないと火傷をするくらいの広さでした。

川遊びは、近くの汐川でウナギやタニシを獲ったり笹舟を浮かべて遊んでいましたが、アメリカザリガニがこの辺りで見られるようになった昭和35年頃から、少しずつこの辺りの動植物が変化してきたように思います。

## 子ども達の手づくり道具 ①

### “すっこき罠(わな)”

野ウサギを捕まえる「すっこき罠」は、柔らかい針金1本で簡単に作れます。

ほうべを駆け登ってくる野ウサギが仕掛けの輪に入ると、前に進むとすると力で輪が縮む仕組みです。

野ウサギは、ほうべを駆け登ってくる習性がありましたので、その習性を利用して罠道にいつも仕掛けました。



# “山学校”の遊び・遊び場の紹介



## 山学校で体験した遊び・遊び場

主な遊び場所	遊び内容や採れる物など	
① 大草校区弥田地内(西野橋付近)	ウナギ釣り ドジョウ・タニシ捕り 笹船流し	
② 大草校区平松地内	マツタケ・ササタケ(きのこ)採り キノコは「樹の子」の意と言われますが、昔の平松地内は背の低い赤松と少しの雑木と笹だけのやせたハゲ山の丘陵地でした。しかし、豊川用水の通水(昭和43年)以降から農地整備が進み、この地も豊川用水の関係で開墾されて、マツタケやきのこ採りをする場所がなくなりました。	
③ 宝幢寺川周辺	ウナギ釣り ザリガニ捕り	
④ ほうべ	木登り(基地づくり) 木の実・果実(ビワなど)・山菜(山芋など)採りなど	
④ 大草海岸	魚・渡りガニ捕り ハマエンドウ・ハマアザミ採り 当時、地引網の袋以外の網に絡んだ魚は、子どもでも竹籠に入れて自由に持ち帰ることができました。	
⑤ 大草校区辻り(ぬめり)地内	ぬめりたけ(なめたけ)採り 辻りのお宮の境内で樹木がうっそうと生い茂っていた。	
〔その他〕屋敷まわり	しいの実(スダジイの実)拾い しいの実が落ち始める晩秋には、小学校に行く前や帰ってきた後、一升枧いっぱいしいの実を拾い、“二・七の市”で売りました。	

### 身近に採れた木の実



グミ(ハマグミ)

海岸の砂浜や山野に自生しており、熟した赤い実は食べることができます。

ムベ(地域によってはウビ・ウベと呼ばれる)

11月頃に果実が色づき、暗紫色になると食べ頃になります。アケビに似ていますが、実は裂開しないため、手で割って果肉を食べます。



# 忘れることのできない記憶

## 遊び場で突然の恐怖...そして祖父の愛情



**田中義道さん**  
(大草校区・農業)  
昭和16年8月1日

真夏の大草海岸で起きた出来事です。ふと太平洋沖に目をやると、遙か彼方から一羽のカラスが飛んで来るのが見えました。私は気にも留めず祖父と無邪気に遊んでいましたが、村の衆たちが地引網を揚げ、網を干している時にどこからか轟音が近付いてくるのに気付きました。私は再び沖合いに目を向けると、一羽のカラスは飛行機で、それもアメリカの艦載機だというのがはっきり分かりました。

村の衆は、急いでほうべの谷に隠れましたが、当時4歳だった私は逃げる際に足を地引網に絡ませたため身動きが取れず、一人浜に取り残されました。祖父は逃げ遅れた私に気付き、とっさに私に覆い被さってきてくれました。艦載機は銃口を私達に向け、容赦なく機銃掃射してきましたが、私たちの真横に着弾する音を残して艦載機は遠のいて行きました。

私は身をもって庇ってくれた祖父の行動を、今でも心の奥底に記憶しています。…この日は、太平洋戦争の終戦前日で、ちょうど渥美電車が銃撃された日でした。

## 遊び場は教育の場( 拠点 )

私が小学生の頃は、仲間たちと東ヶ谷海岸でよく野球遊びをしていました。上級生や下級生が20人くらい集まって、村の衆たちが地引網( 沖網 )をしている広々とした砂浜で終日遊んだものです。当時は、買い与えてもらった道具は何一つなく、木切れのバットや布ボールを自分たちで作って遊んでいました。

野球遊びの他にも、東ヶ谷海岸の 沖の瀬まで泳いで行き、渡りガニやエイを竹製のモリで突いて獲ったこともあります。昔の遊び場は、むしろ教育の場( 拠点 )だったと思います。海岸に行けば、泳ぎ方や海で守らなければならないルールを漁師から学びました。ほうべでは、上級生から登りやすい木や登ると危ない木、食べられる木の実や果実を教わりました。

私たちは、蒼く輝く太平洋と東西に延びる銀色に輝いた



砂浜( 表浜海岸 )そして豊かな時間を与えてくれた地域の自然に育まれ成長できたと思います。

**堀部孝義さん**  
(神戸校区・農業)  
昭和12年4月19日

拠点:活動のよりどころとなる地点。

沖網:波打ち際の近海で地引網をすることを丘網と言い、太平洋の水平線まで地引網を仕掛けに出ることを沖網と言っていた。

沖の瀬:波打ち際から沖に向かって浅瀬( 浅い所 )になっている所。

表浜地域の豊かな自然は、時の流れとともに少しずつ変化しています。

昔と今、私たちを取り巻く自然環境は、記録された写真でその変化がうかがえます。



昭和30年5月撮影



平成16年9月撮影

表浜海岸：海岸防災林の植栽前

## 次世代に引き継ぐ大切な場所



**渡辺敏人さん**

(六連校区・農業)  
昭和9年12月5日

小学生の頃、私たちの遊びには“小刀”が必需品でした。今は危ない道具と思われていますが、その頃の学校では小刀でエンピツを削る時代で、誰でも1つは持ち歩いていました。小刀を使えば、竹とヒモで鉄砲を作って朴木の実や杉の実を鉄砲玉にして遊ぶことができましたし、“くびっちょ”という小鳥を捕まえる仕掛けも作ることができました。

子どもの頃は、遊び道具は何でも自分で作るもので、親から買い与えられた物は何一つなかった時代です。自然の中で遊ぶには、自然にある物を使って道具を作るしか手立てがありませんでした。

今は、ほうべの崩落や表浜海岸の侵食などで自然の遊び場(砂浜など)が失われつつあり、子ども達や親たちが安心して遊べる場が狭く、少なくなっています。

魚籠にイワシをいっぱい入れて、ほうべを登ることのできた古き良き時代は数十年も前の話ですが、現代から次世代に引き継ぐものは一体何があるのか、何を守って手渡せるのかを皆で考えなければならぬと思います。

## 子ども達の手づくり道具 ②

### “竹鉄砲(たけてっぽう)”

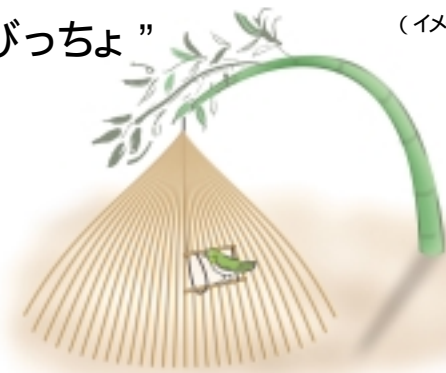


子供の頃に作った竹鉄砲を再現しました。

## 子ども達の手づくり道具 ③

### “くびっちょ”

(イメージ図)



竹囲いの中に餌を蒔き、入口の止まり木に小鳥が乗ると跳ね木が跳ね、入口が閉まる仕掛けです。

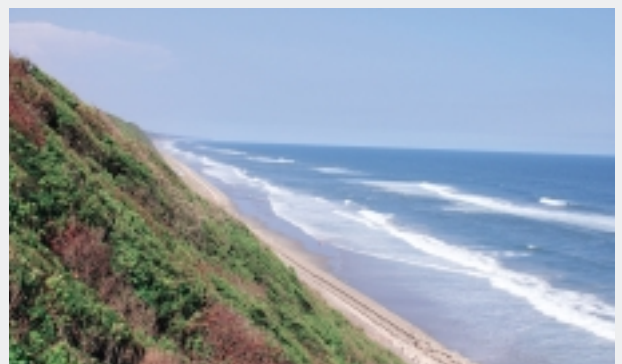
## 私たちが考え、 行動すること。

過去から現在において、私たちと自然は生活環境において密接な関係で成り立っていますが、表浜地域の自然は徐々に自然力を失い、衰弱していると思われます。

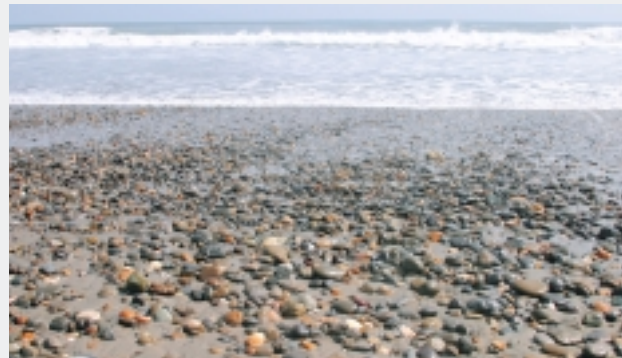
衰弱した背景には、私たちが利用価値を忘れつつあること、昔からの自然を意識しないことなど、日常生活の中で目を向けないことが最大の問題ではないかと考えます。

かつての表浜地域は、大人や子ども達が安心して安全に産業に営むことや遊ぶことのできた場所が幾箇所にも点在していましたが、今となってはその場所のできた様々な活動も海岸侵食などによって私たちの記憶から消え失せています。

他に類を見ない表浜地域の自然環境を、利活用の見方を変えながら新しい価値を創出すること、また価値を引き出すことが、子孫に夢と誇りを継承する私たちの役割ではないかと考えます。



表浜海岸は年々真砂まさごが消失し、砂浜がやせ続けています。



## 「潮の流れ」

山田もと

ゆきの学校は、遠州灘の近くです。学校の砂場の砂が減ってしまったので、今日は浜から\*まさごを運んで、砂場へ入れる作業です。

3年生以上で50人位の生徒が、布の袋や風呂敷の中に、浜のまさごを持てるだけ入れて、ほうべの坂を運び上げるのです。

砂浜に立ったゆきは、びっくり……。

「あれっ、あれ、あれなに？きれーい。」



「あんなもん、いつでもできとるがね。」

「誰が作ったんだ。」

「ゆうべ風が強かったんで、できたずら。」

浜育ちのとしは、平気な顔です。

「風が通った足跡かん。」

なんて素晴らしい。浜のまさごが小さな波の模様をかいて、同じ模様がいくつもいくつも、目に見える限り続いているんです。丘育ちのゆきは、初めて見る、この雄大な砂の模様を目を見張っています。

「はや砂を運ばにや、おいていかれるよ。」

としもまさ子も他の生徒も、平気でこの素晴らしい風の足跡を崩して袋に入れていきます。

「ほーい、崩さんどいて。」

「風が吹きやあ、またできるよ。」

男子の暴れん坊たちが、この模様の上を走り回って、めちゃくちゃにしてみました。

急な坂道は狭くて七曲り。その道を、袋に入れたまさご

をしょったり、さげたり、風呂敷の隅からこぼしながら、まるで蟻の行列です。

ゆきがよちよち登っていくと、小さいよねが道の\*くろに座っています。

「どうしたんだ。」

「\*こんきくて歩けんよ。」

「これっばか持っってもかん。」

ゆきは笑い出しそうです。

よねの袋には、かた手に2杯位しか、まさごが入っていません。

「さあ、持ってあげるで歩きん。」

よねはゆっくり立ち上がって、ゆきに引っ張られて、登っていきます。

「おお、下りは楽ちん、楽ちん。」

早い子は2回目を駆け下りて行きます。

「どいたどいた、どいたあ。」

大きい男子が、棒のまん中に袋を3つもぶら下げて登って行きます。

ほうべの上では、先生や大きい男子が、牛車の上で受け取ってくれます。

今日は、風も凜いで波も静か。冬の日差しは暖かで、ほうべを3回上り下りすれば汗ばんできます。学校の砂場もこれでふかふか。ゆきは砂運びが楽しい。またあの風の足跡にも会いたいです。



まさご：細かい砂　くろ：隅　こんきくて：疲れて

## お悔やみ

平成16年9月4日、「表浜の昔話」の執筆者である山田もとさんがご逝去されました。慎んでお悔やみ申し上げます。

山田さんは、潮騒創刊号から第6号まで、表浜地域の生活や暮らしなどを昔話に例え、また実体験に基づくお話を私たちに分かり易く、時には方言を交えながら執筆いただき、

とても温かな表現で読む人の心を和ませてくれました。

山田さんからいただいた、これまでのご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、心安らかに永眠されることを深くお祈り申し上げます。

平成16年10月1日

田原市太平洋岸総合整備促進協議会 委員一同

# 「みんなで考え・行動する地域づくり」が 田原市太平洋岸総合整備促進協議会の活動姿勢です。

表浜地域は、農業生産基盤の整備と一体となって生活環境整備が進められていますが、市街地に比べ利便性の面で立ち遅れが感じられます。このため地域住民の合意形成のもと、自然環境及び景観と調和のとれた快適で住み良い生活環境整備が求められています。

本協議会は、多様なニーズに応える海岸環境の整備推進を柱に、新世紀に相応しい魅力ある表浜地域の実現を、より高い次元で図っていくことが必要であると考えています。そして、誰もが当地域を愛し、喜びを感じて住むことに誇りを持つ、安心安全な地域の創造に今後も取り組んでいきたいと思っております。

最後に、当地域における快適で住み良い地域づくりを推進するためには、安全性 利便性 快適性 文化性など、多面的にわたる総合的な推進を図る必要がありますが、田原市発足を機会に旧赤羽根町エリアの地域とともに一体的な整備が実現されるよう活動していきたいと願っております。

田原市太平洋岸総合整備促進協議会 会長 **首藤義隆**

## 協議会活動の経過

- H8.1...協議会発足 H8.3 沿岸部に関する地元要望作成
- H9.3...基本構想「サングリーン21」策定
  - 方向性 ・自然環境の保全と活用 ・農業基盤、農村環境の整備
  - ・観光・レクリエーション施設の整備 ・幹線道路の整備
  - 展開 ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
  - ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
  - ・渥美半島全体の連絡調整
  - ・関係機関への要望運動等の展開
- H9.11...専門部会設置 H10.3 海浜・崖森エリアの基本計画策定
- H10.10 農地エリア整備の地元検討書作成
- H10.11...第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催
- 以降(H11.10第2回) (H12.11第3回) (H13.10第4回) (H14.11第5回)
- H14.9...環境保全啓発看板の設置
  - ・大草海岸を始め6箇所の海岸に設置
- H14.11...海浜拠点整備地区の選定(谷ノ口地区)
- H15.3...ええNOZEガーデン整備計画策定(谷ノ口総合整備促進協議会)
- H16.7~国土交通省事業-地域振興アドバイザーを受け入れ(谷ノ口総合整備促進協議会)

## 協議会組織 (平成16年10月現在)

役員	会長	首藤義隆(六連校区総代)
	副会長	高橋昭好(東部校区総代)、横田克彦(神戸校区総代)、田中義道(大草校区総代)
委員	市議会議員	伊与田知養、川口治吉、大羽 敏、河辺正男、彦坂雄三、富田秀穂、多田辰郎
	漁業関係者	福井嘉之(神戸漁業協同組合長)、大河豊志(六連漁業協同組合長)、中嶋 徹(神戸漁業協同組合)
	市農業委員	神谷昌尚、水谷正幸、鈴木敏夫、大河 治
	市役所関係者	菰田稀一(助役)、瓜生堅吉(教育長)、林 勇夫(建設部長)、金田信芳(都市整備部長)、彦坂善弘(経済部長)
顧問	白井孝市(田原市長)、鈴木 愿(愛知県議会議員)、岡本勝(JA愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	田原市役所総務部(企画課)、山田憲一(総務部長)	

## 表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き

(平成10年3月策定の海浜・崖森エリアの基本計画)

### ハード事業

海岸整備(県事業)

海岸保全事業(傾斜護岸): 大草海岸

海岸治山事業: 六連地内

拠点地区の整備促進(市事業)

公衆便所整備事業: 谷ノ口海岸(H9整備済)

大草海岸(H10整備済)、百々海岸(H11整備済)、東ヶ谷海岸(H13整備済)

海岸駐車場事業: 大草海岸駐車場(H11整備済)、百々海岸(H12整備済)

道路整備事業: 谷ノ口海岸線道路拡幅(H16~)、本郷上り口線道路拡幅(H16~)

### (愛知県の動き)遠州灘沿岸海岸保全基本計画

愛知県と静岡県では、遠州灘を広域的な視点で捉え「防護」に「環境」「利用」を加えた海岸づくりを目指す「遠州灘沿岸海岸保全基本計画」を共同で策定(H15.7)しました。この計画は、各海岸の特性に応じた整備や環境の保全、適正な利用を図ることを目的とし、田原市内では大草・谷ノ口・百々海岸他の整備が位置付けされています。

多額の費用を要する海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的な価値の創造や活用を展開し、必然的な投資効果の向上を図る必要があります。

### ソフト事業

表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

メイン会場: H10 谷ノ口海岸、H11 大草海岸、H12 百々海岸、H13 東ヶ谷海岸、H14 大草海岸、H15 百々海岸  
表浜のレクリエーション

健康ウォーキング大会(市教育委員会): H10 東ヶ谷海岸、H11 大草海岸、H14 谷ノ口海岸、H15 大草海岸

ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成): H13 六連海岸

## 農地エリアの整備 実現に向けての動き

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

### ソフト事業

農地基盤に関する実態調査(市事業) 農地基盤再整備に関する調査: H11 表浜全域

### ハード事業

農村・農地の整備(市事業) 農村総合整備事業: H12~16 神戸地区

## 国土交通省事業

# 地域振興アドバイザー派遣受入れの紹介



(左から)本田アドバイザー・松田アドバイザー・伊藤アドバイザー

### 拠点地区づくりの動き

谷ノ口総合整備促進協議会では、地区内の諸問題を解決するため国土交通省から全国各地で活躍されている民間アドバイザー(3名)の派遣を受入れ、当地区における課題を地域振興策に変換する具体的な検討を行っています。

第1回を7月5～6日、第2回を9月12～13日に開催し、12月17～18日の派遣を最終として谷ノ口地区振興策(案)を立案する予定です。

これまでの派遣受入れで、私たちだけでは気付かないことや問題の糸口さえ見当たらないことを的確にアドバイスいただき、既にその効果も出始めています。



.....(左)  
個別のテーマにおける解決策を3部会で検討しています。

(右).....  
女性を中心とした会議も開催し、女性参画を得た協議会活動を目指しています。



## 平成16年度の事業計画

### 主催事業

### 第7回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 平成16年10月9日(土)AM9:00～PM1:00

悪天候の場合は10月11日(祝)に延期

場所 表浜一带(メイン会場は谷ノ口海岸)

内容 清掃活動、太鼓演奏、地引網(予定)ほか

目的 表浜の良さ、侵食等の現状を広く知らしめ海岸整備の促進を図る。

### 推進事業

- ・海岸保全施設の整備: 愛知県土木部
- ・海岸治山事業: 愛知県東三河農林水産事務所
- ・海岸進入道路の整備(谷ノ口海岸): 田原市建設部土木課
- ・農村総合整備事業(神戸地区): 田原市経済部農政課

### 第6回表浜自然ふれあいフェスティバル

H15  
10.25  
開催

海岸侵食が進む表浜の現状と自然の魅力をもっとPRするため開始され、今年で6回目を迎えたこのイベント。今回も地域住民約2,000人が参加し、久美原～大草までの各海岸で清掃が行われました。メイン会場となった百々海岸では親睦会が開催され、参加者たちは、各校区の女性たちが作った校区特産鍋を味わいました。



表浜情報誌「潮騒」や「協議会事業」に関するご意見・ご要望・ご感想をお寄せ下さい。

発行(事務局): 〒441 3492 愛知県田原市田原町南番場30 1 TEL0531 23 3507 田原市太平洋岸総合整備促進協議会(田原市役所企画課内)